

関西大学第4学舎1号館



2017・3

ごあいさつ

第4学舎(理工系3学部)の施設・設備の構築にあたり、関西大学の資源と伝統を継承し、時代を創造する科学技術を育み、成長できる、伝統と創造性が共存することをビジョンに掲げ、2014年度から3か年計画で学舎のリノベーションを行ってまいりました。

当計画の完成年度であります本年度は、1号館増築棟の建設とともに、1960年に竣工しました工学部(当時)の最初の学び舎であります1号館の耐震改修も同時に行われました。第4学舎の玄関口として、新しい構築物の誕生と50有余年の歴史を有する構築物の回生は、ビジョンを具現化したものとして、ここに竣工を迎えましたことは、大変意義深いものであります。

1号館増築棟は、理工系で学ぶ学部生ならびに大学院生のスパイラルアップ学習環境の構築を目指すことをコンセプトとした延床面積1,341.75㎡を有する鉄筋コンクリートの4階建ての建物であります。

1階は「授業支援ステーション」と理工系3学部の指導・学習スペースとして、「学習支援室・協同学習室」を設置し、現在、狭隘化している指導・学習エリアを拡充することで、学習意欲を持つ学生の支援環境を改善することを意図しております。2階は学習支援を受けた学生がそのモチベーションを維持した状態で「継続的」な学習が行える「ラーニングcommons(サイレント)」とグループ・ワークが行える「ラーニングcommons(グループ)」を設置し、学生が協同・自主学修が行える環境を創出し、学生の自主的な学習とチームワークを育むことを目指します。3階は大学院生の「ゼミナール室Ⅰ」及び「ゼミナール室Ⅱ」の2室を設置しております。大学院生の講義・ゼミナール(発表を含む)・自主的討論を行うためのスペースとし、大学院生が教員・院生同士での学修を進化(深化)させることを目指します。4階は大学院生の個人研究スペースとして、「院生共同自主研究室Ⅰ」及び「院生共同自主研究室Ⅱ」の2室を設置しております。これらは大学院生が進めている研究について、解析・考察などの知的活動を行い、研究者としての基礎力を育むスペースです。1階から4階に進むにつれて、高度な学習を促す環境となっており、学習者に支障を来すことなく「見学」できることで、各段階での学習者の知的好奇心を刺激し、勉学への意欲を高めることができる構造になっております。

第4学舎のリノベーションの完了により、施設・設備関連事業のコンセプトであります「学生の学び、教員の教えの環境整備と改善」、「学びと創造の拠点の可視化」に大きく寄与し、理工系の教育活動のさらなる発展が期待できるものであります。

最後に、第4学舎1号館の竣工にあたり、関係者のご尽力に敬意を表しますとともに、関係各位から広く賜りましたご協力とご援助に対しまして、深甚なる感謝の意を表します。

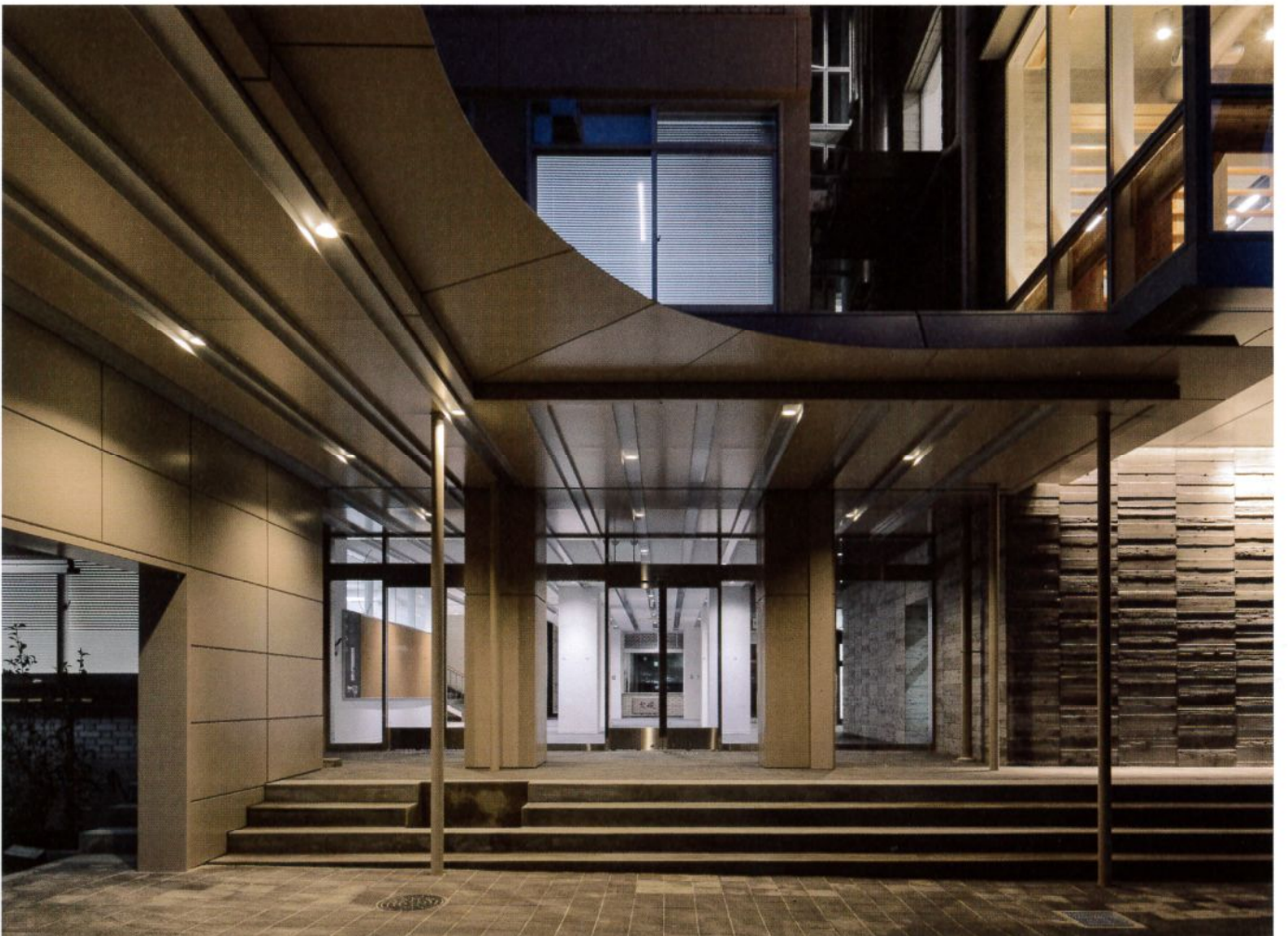
2017年3月
学校法人 関西大学



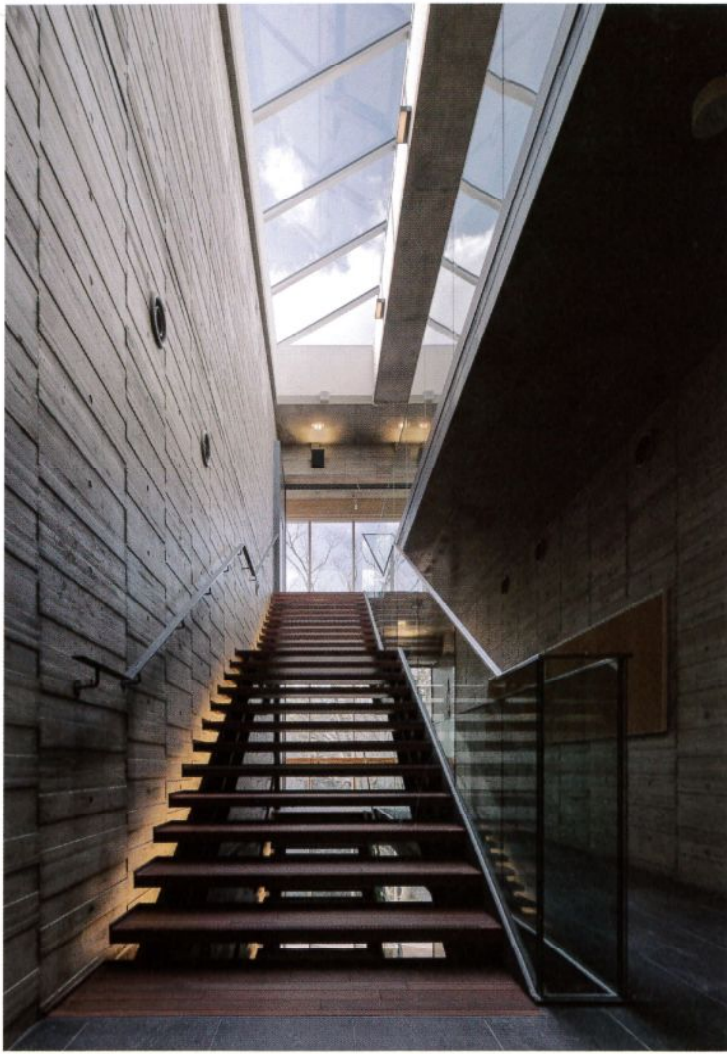
■増築棟の北側ファサード



■増築棟の北側ファサード夜景



■1号館北側出入口とキャノピー



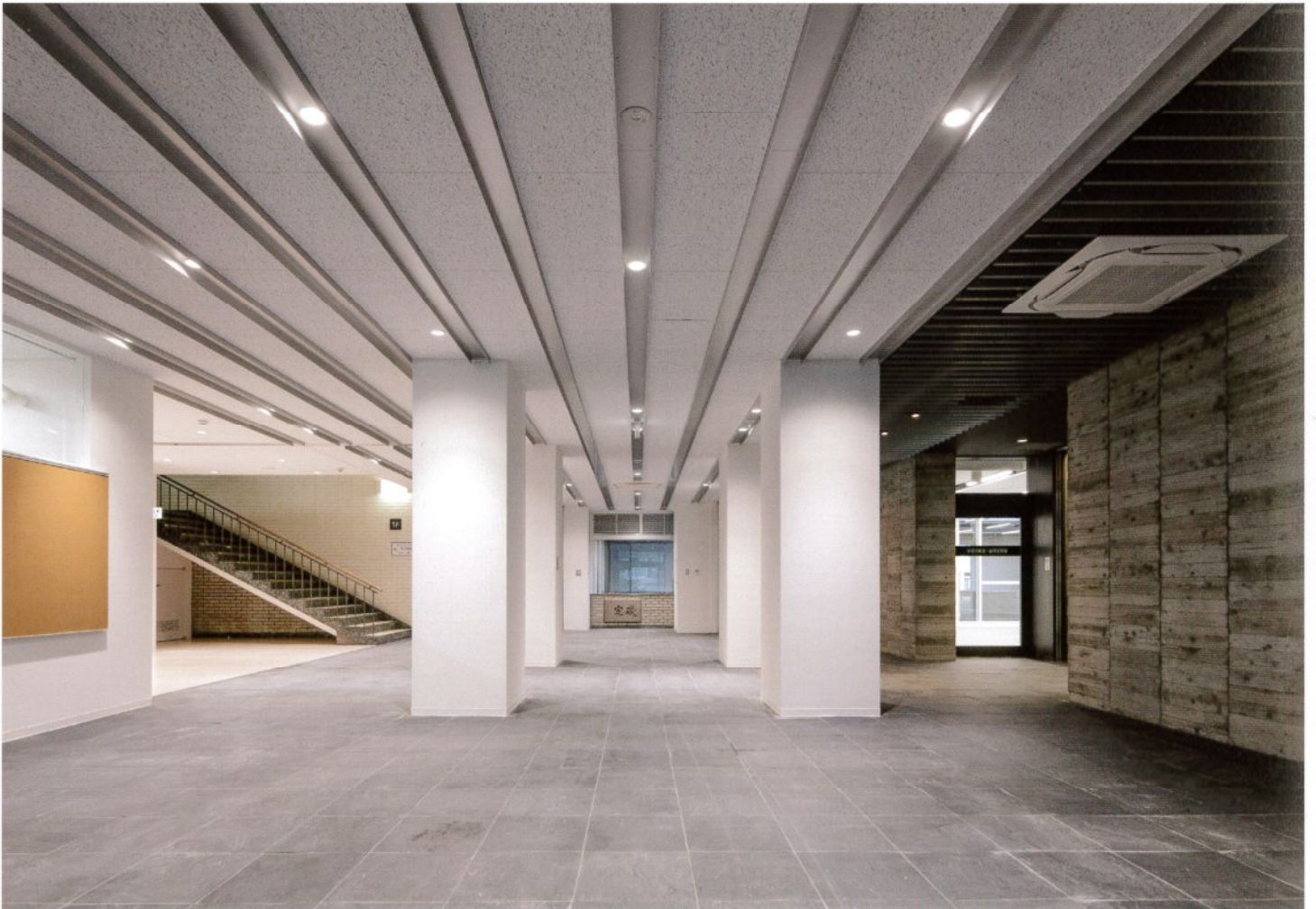
■3階 中央階段部とトップライト



■1401 院生共同自主研究室 I



■1301 セミナール室 I



■エントランスホール



■3階 ギャラリー



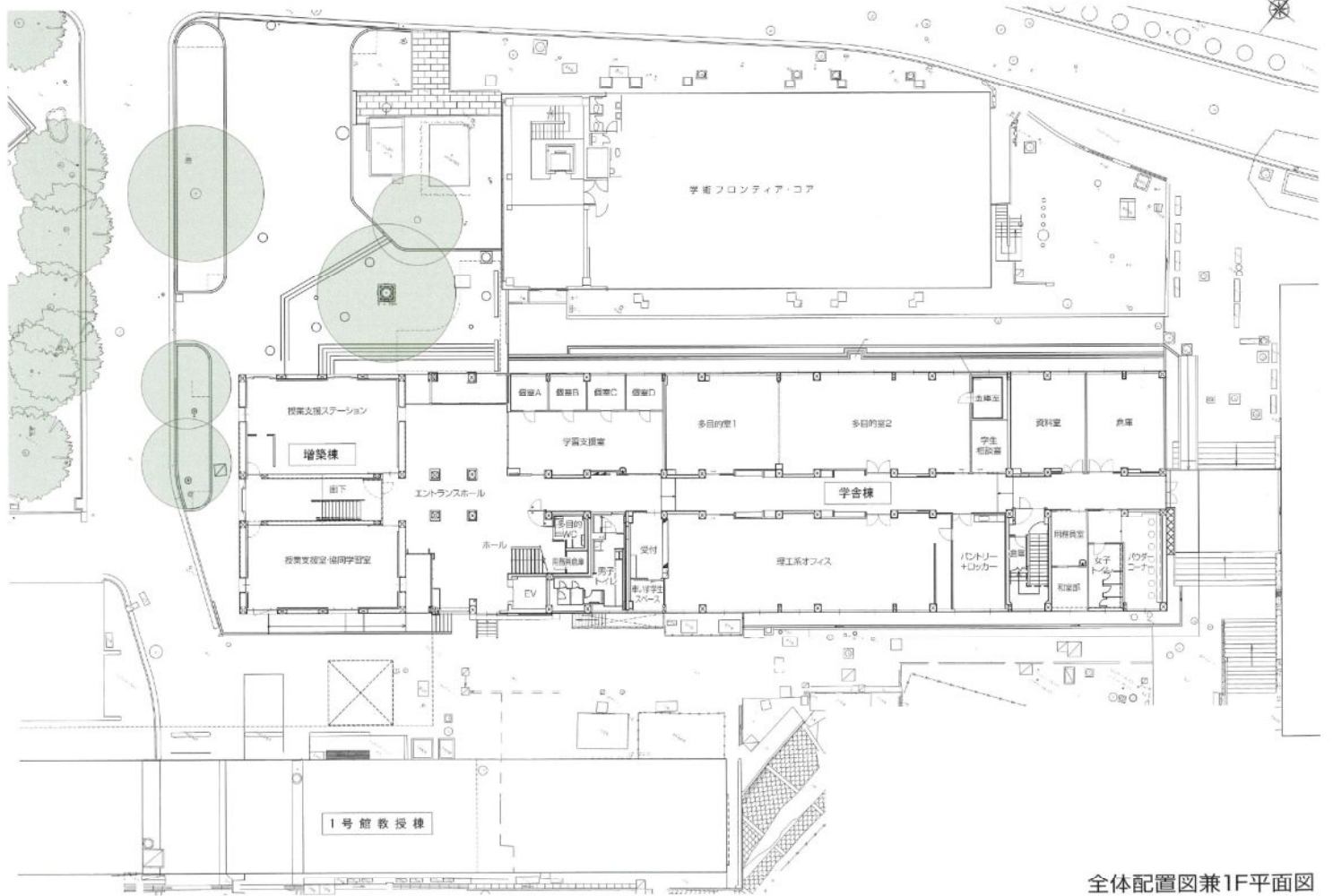
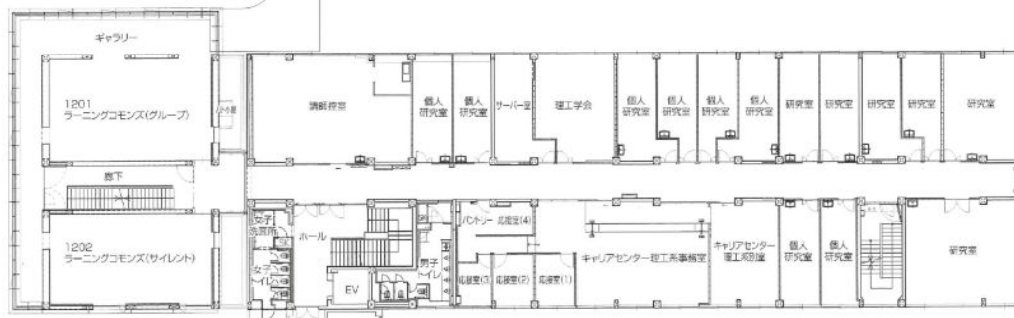
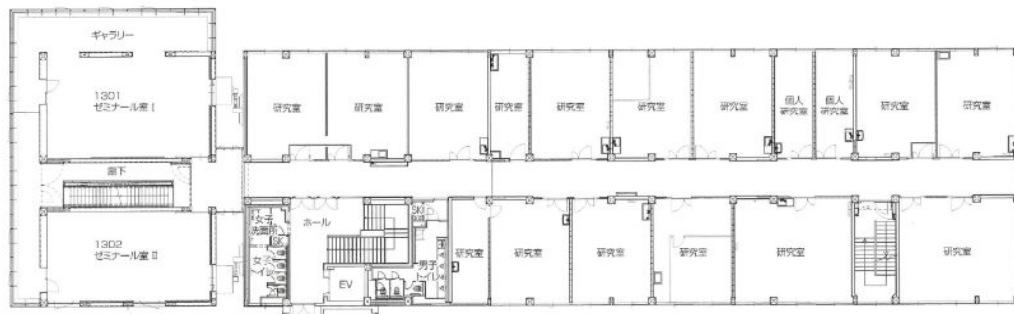
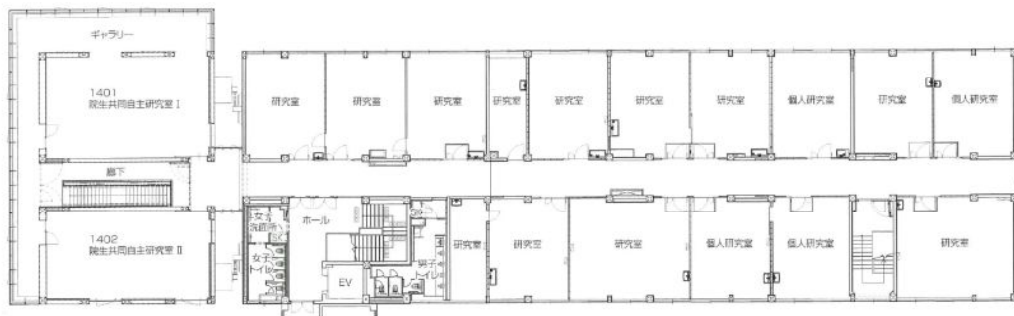
■2階 キャリアセンター理工系事務室前廊下



■1階 理工系オフィス前廊下



■既存棟と増築棟間の制振ダンパー



■設計コンセプト

第4学舎はキャンパスのほぼ中央に位置し、複数の建物が様々に連なりながら広場や中庭、通りの景観をつくり出しています。1号館はその主軸となる棟で、1960年に竣工した工学部の最初の建築です。設計者は、我が国の歴史的建築家である村野藤吾であり、シンプルで端正な構造と窓開口のリズム、生地素材の使用など優れたモダニズム建築にまとめ上げられます。

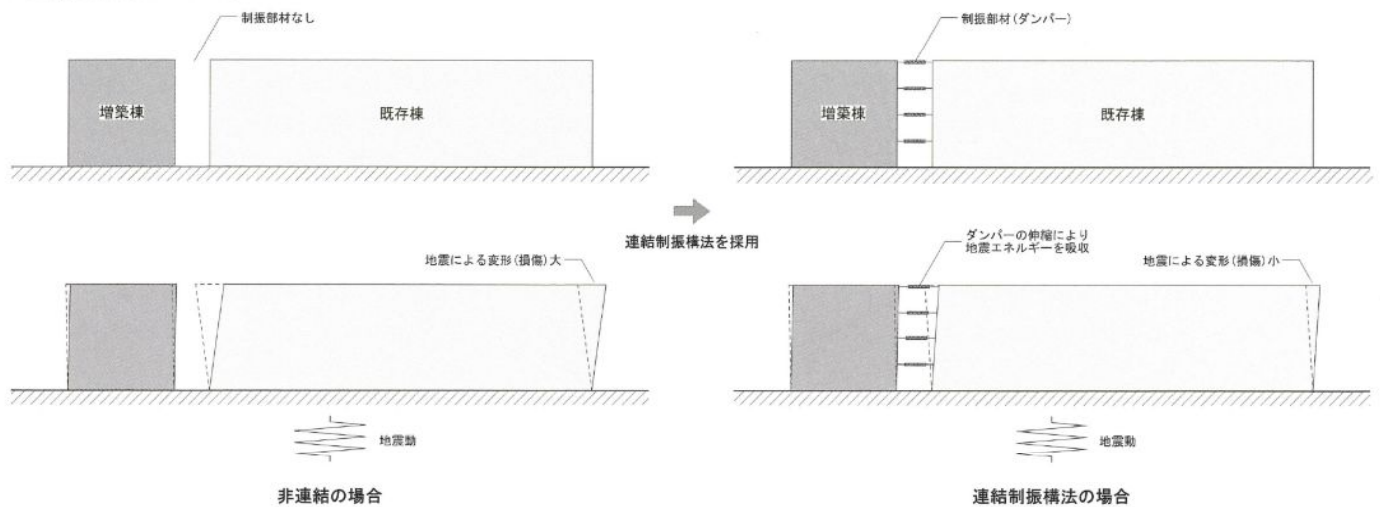
本プロジェクトは、この1号館に耐震改修を施し、且つ内装の改修と増築を行ったものです。1号館は第4学舎全体の玄関であり、多くの人が利用・通行するなど公共性が高く、学舎を代表する顔として新しい機能や外観とともに学舎固有の専門イメージの表出を図りました。単なる改修を超えた創造的な建築再生のことをリノベーションと呼び、我が国でも注目されつつある新しいジャンルです。関係者の粘り強い対話応答や最新の設計技術・ノウハウをもとに今回の実現がかないました。

既存棟の各部屋は、白を基調に元のレンガの肌合いも残しながら綺麗に改装され、共用空間では村野藤吾設計の階段やタイルを保存継承しました。耐震設計は、制振構造すなわち既存棟と増築棟が互いの揺れを制振ダンパーにより地震外力を吸収し合うという先進的な方法を採用することで、構造体の改修はコンパクトになり合理的で美しい外観の仕上がりととなりました。

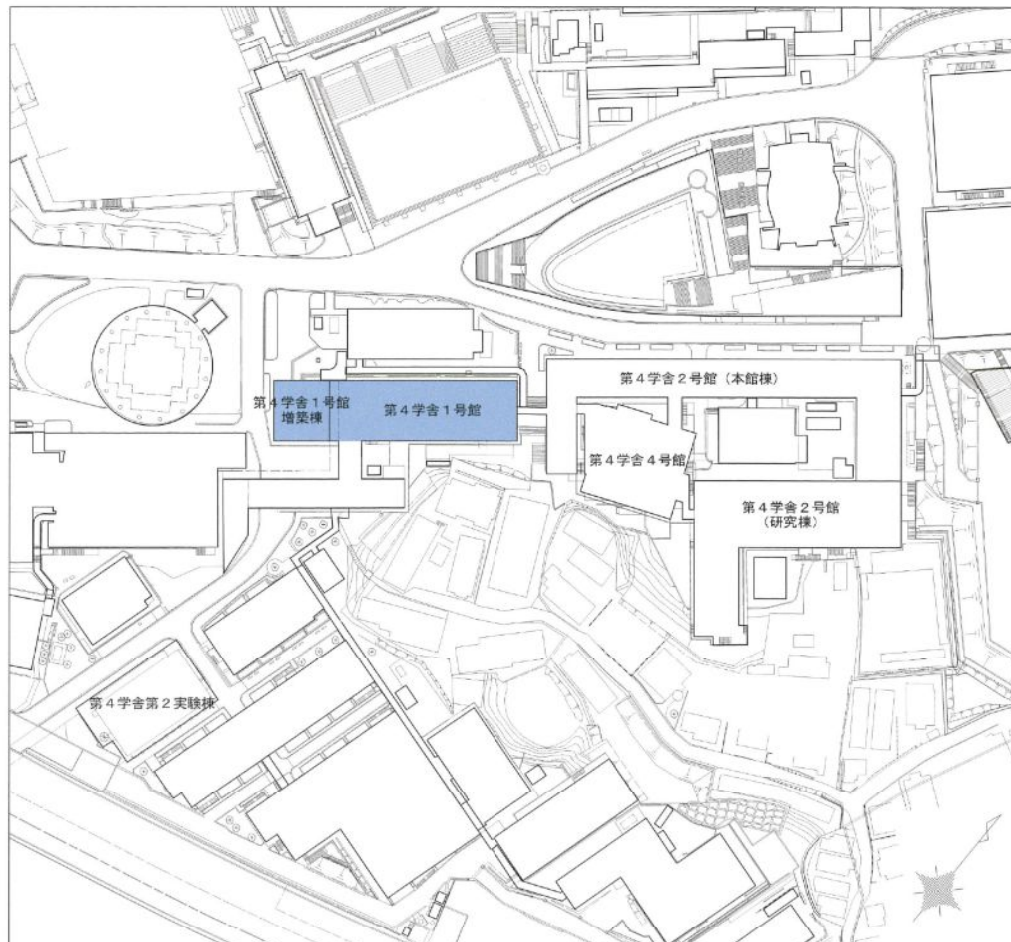
学舎と通りをつなぐ大樹の茂る広場をしっかりと保全し、増築棟はこれに控えて調和しながら建ちます。杉板型枠の肌合いのある鉄筋コンクリートの躯体がどっしりと建ち、制振構造体として既存棟の耐震に寄与しています。その周囲にガラスのギャラリーが取り巻き、樹木を主役とした景色を大胆に取り込み、木質の床・引き戸・カウンターが使われた、自然の風光が行き来する快適な空間となります。大地の改変を少なくするため、1階はセットバックし2階以上は外へ張り出したキノコ型の形態とするなど、環境に親和的な建築としています。増築棟内の各室は、第4学舎の創造性とアクティビティを育むための自主的な様々な学習機能に利用されます。

このように、伝統の継承と環境共生、そして創造的探究を具現化したこの新生1号館は、学問の新しい創造を発信しつつキャンパスを見守り続ける灯台であり羅針盤のような建築であり続けるのです。

■連結制振構造の考え方



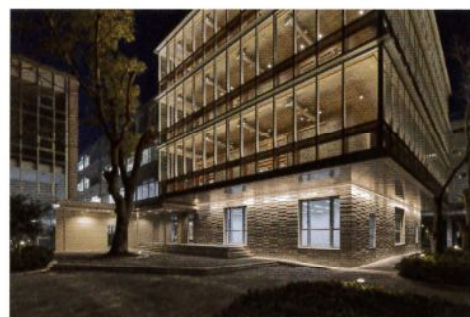
■周辺施設配置図



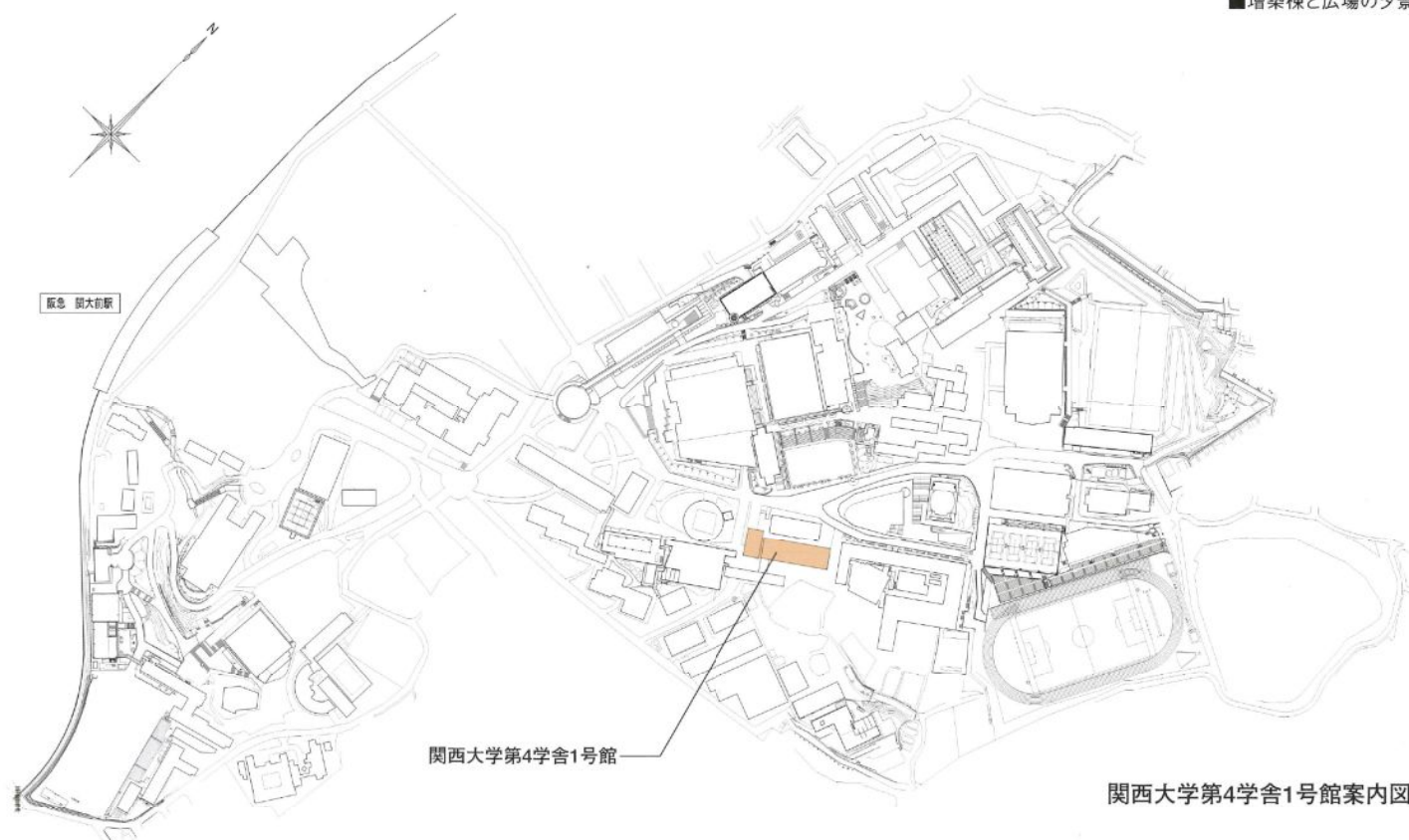
■ 建築概要

| | |
|------|--|
| 名称 | 関西大学 第4学舎1号館増築棟 及び 1号館耐震補強改修 |
| 所在地 | 大阪府吹田市千里山東3丁目10番1号 |
| 設計 | 佐藤総合計画・星田逸郎設計共同体 |
| 施工 | 大成建設 株式会社 |
| 工期 | 着工 平成28年3月25日 竣工 平成29年3月10日 |
| 構造 | RC造 地上4階 |
| 建築面積 | 379.58㎡ |
| 延面積 | 1341.75㎡ |
| 床面積 | 4F 334.39㎡ 3F 334.05㎡ 2F 366.47㎡ 1F 306.84㎡ 合計 1341.75㎡ |
| 外装 | 外 壁 コンクリート杉小巾板型枠化粧打放し+アルミサッシ 屋 根 コンクリート直押さえの上、外断熱材厚40保護 コンクリート厚80 開口部 アルミサッシ |
| 内装 | 専用部 床/タイルカーペット 壁/EP塗装 天井/木毛セメント板+岩綿吸音板 スリット天井 共用部 床/ブラックスレートタイル 壁/コンクリート杉巾板型枠化粧打放し 天井/コンクリート化粧打放し |

| | | |
|-------|--------|--|
| 電気設備 | 受変電 | 教授棟1階(変圧器容量 1.150kVA) 電気室より配電 1.150kVA |
| | 配電 | 三相3線210V 単相3線210-105V |
| | 照明 | LED |
| | 弱电 | 電話・情報 放送 ITVカメラ トイレ呼出 入退室管理 |
| | 防災 | 自火報 誘導灯 非常灯 非常放送 |
| 給配水衛生 | 給水 | 建物内既存給水管更新 |
| | 給湯 | 電気式貯湯温水器によるシステムキッチン及び オストメイト汚物流し用 |
| | 排水 | 建物内既存排水管更新 |
| 空調設備 | 消火 | 屋内消火栓、消火器、連結送水管 |
| | 空調 | 空冷ヒートポンプエアコン及び ガスエンジンヒートポンプエアコンによる個別空調 |
| | 換気 | 全熱交換器による第1種換気 トイレ ストレートシロッコファン等による第3種換気 |
| 昇降設備 | エレベーター | 1基(既存1号館 改修) 乗用15人乗り 60m/min |



■ 増築棟と広場の夕景



関西大学第4学舎1号館案内図



学校法人 関西大学